



# こすもスマイル



66号 発行：小林市立病院 地域医療連携室 令和6年3月

～事務部長のあいさつ～



日頃より当院の運営並びに地域連携にご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。昨年、新型コロナウイルスの取扱いが「5類」に移行され、街には賑わいが戻ってきました。生活形態や仕事の仕方など様変わりしましたが、色々な方と交流できる喜びをかみしめております。

さて、本紙 60 号の続編として公立病院改革の進捗をご報告いたします。

60 号では、国が通知した「公立病院経営強化ガイドライン」に基づき、当院でも「経営強化プラン（以下「プラン」といいます。）」を策定することをお伝えし、昨年4月から約9ヶ月間をかけて西諸3市町、各公立病院と情報共有・協議しながらプランの素案をとりまとめ、本年1月11日から2月9日までパブリックコメントを実施しました。今後、いただいたご意見を踏まえたプランの原案を西諸地域医療構想調整会議にお諮りし、本市議会への報告の後、公表いたします。

今回策定したプランには、西諸公立3病院の役割の明確化と連携強化を行ったうえで喫緊の課題である医師確保の取り組みを強化し、医療人材の有効活用やスキルアップ、経営改革を進めるために6つの重点課題を掲げました。そのうち最も重要な課題として、「地域医療連携推進法人」を立ち上げ、西諸公立3病院が一体的に持続可能な診療体制を築くこととしております。

本プランは令和6年度から9年度までの4年間を実施期間としています。引き続き、西諸の地域医療の確保のため、多角的に取り組んでまいります。今後も、御指導よろしくお願い申し上げます。

小林市病院 事務部長 貴嶋 誠樹

## ※地域医療連携推進法人とは

地域において良質で適切な医療を効率的に提供するため病院等に係る業務の連携を推進するための方針を定め、医療連携推進業務を行う一般社団法人を県知事が認定する制度です。

令和5年4月1日現在、全国 34 法人（九州地区では2法人）が地域医療連携推進法人として認定されています。

## 【理 念】

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

## 【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



# 泌尿器科紹介

日頃より大変お世話になりありがとうございます。

年始から自然災害や航空機事故など胸を締め付けられる出来事が続きました。小林市役所からの迅速な職員の被災地支援派遣には頭の下がる思いです。当院からも1月下旬から2月初旬にかけてDMAT隊（医師、理学療法士、事務各1名、看護師2名の計5人）が派遣され穴水町総合病院の救急外来支援が行われました。皆様の安全と被災地の1日も早い復興を祈るばかりです。

2023年1月から12月までの腹腔鏡手術の実績は腎摘除・部分切除術：11例、前立腺全摘除術：16例、膀胱全摘除術＋尿路変更術：4例、膀胱脱根治術：1例、そのほか経尿道的内視鏡手術は尿路結石レーザー破碎術：35例、膀胱腫瘍切除術：25例、前立腺核出／切除術：7例でした。引き続き最善の治療が行えるよう努力して参ります。

女性特有の病気である骨盤臓器脱について。骨盤臓器脱とは、膣のヘルニアなどとも呼ばれ、子宮・膀胱・小腸・直腸などが下垂し膣外に出てきてしまう病気です。最初は膣の違和感、下垂感だけですが、進行すると排尿困難や排便困難、性機能障害なども起こるようになり、痛みや出血のため著しく生活の質を低下させます。また、恥ずかしさから病院にも行けず、人知れず悩んでしまう病気でもあります。骨盤臓器脱の治療には保存療法と手術があります。手術に関して当院では腹腔鏡手術を採用しています。お気軽にご相談ください。

泌尿器科科長 森 勝久

## マイナンバー法等の一部改正について

2024（令和6）年12月2日から、マイナンバー法等の一部改正により、現在の健康保険証を廃止し、マイナンバーカード（マイナ保険証）を基本とする仕組みに移行します。マイナ保険証のメリットについては以下のとおりです。

- データに基づく適切な医療が受けられる。（薬剤情報や特定健診情報などの提供に同意した場合）
- さらに、初診時等の窓口負担が軽減される。（保険証の登録がスムーズになる）
- 高額療養費制度の手続きが不要になる。（手続きがなくても、高額療養費の限度額を超える支払いが免除される）

ただし、特定疾病医療証や乳幼児（こども）医療券等については、従来どおり窓口で提示していただく必要があります。

マイナンバーカードの手続きがお済みでない方や紛失している方には「資格確認書」が無料で発行されます。



外来受付に、マイナンバーカード専用のカードリーダーを設置しています。

医事係長 清水 秀一

# 栄養情報だより

<臨床栄養室>

## ストレスに負けない！腸活を始めましょう

### ～腸活とは～

腸活とは、腸内環境を整えて腸の機能を改善することです。腸は食べ物を消化し栄養を吸収する大切な役割があり、全身の健康に影響します。

#### 人体で最大の免疫器官

腸には体内の免疫細胞の60%以上が存在。腸内環境を整えることで免疫力アップにつながります。免疫力がアップすると風邪や病気になりにくい体になります。



#### 腸は第二の脳

腸には脳に次ぐ多くの神経細胞が存在し、感情にも深く関わります。精神ストレスを軽減することで、腸内環境も良好に保つことができます。



新年度を迎え入学や就職、新しい環境での生活が始まる季節です。腸の健康を守りストレスに負けない体を整えましょう。

### ～腸活の食事のポイント～



#### ●食事をしっかりと食べましょう！！

朝昼晩の3食を決まった時間に食べることで腸のリズムが整い、腸内環境を整えることに繋がります。

#### ●善玉菌を増やす食品を食べましょう！！

善玉菌とは腸を元気にし、働きを活発にする菌です。善玉菌を増やすためにおすすめの食品を毎日の食事の参考にしてください。

##### 発酵食品

(ヨーグルトや味噌、納豆など)



##### オリゴ糖

(玉ねぎや大豆、バナナなど)



##### 食物繊維

(野菜やきのこ、海藻など)



# 宮崎 DMAT 災害派遣

## ～石川県穴水町～



派遣先：穴水町保健医療福祉調整本部（穴水町保健センター内）

写真：公立穴水総合病院（穴水町保健センターに併設）



### 【派遣までの経過】

当院のDMAT（災害派遣医療チーム）は、令和6年1月1日に石川県能登半島地震で震度7が発生した直後、当院に参集し、情報収集を行いながら派遣要請に備えて出動体制をとっていました。しかし、中部ブロック以外のDMATについては、翌日未明に待機解除の連絡があり、当院も派遣待機解除としました。

その後、中部ブロックのDMATから順次派遣を行ってきましたが、ニュース等でご承知のとおり、道路が寸断され、被災の全容把握や医療提供体制を構築するために想定外の時間を要したことから、1月18日から2月4日までのDMAT（6次隊）派遣要請が九州ブロック（沖縄県を含む。）にあり派遣を決定しました。

### 【派遣先】

石川県穴水町保健医療福祉調整本部

### 【派遣隊員紹介】

（医師） 遠藤 穰治  
（看護師） 川野 友香里  
（看護師） 種子田 健太  
（業務調整員） 武田 慎一  
（業務調整員） 三角園 祐司

### 【宮崎 DMAT 派遣スケジュール】

1月18日から2月4日までの宮崎DMATの派遣チームは次の6チームです。

- ①県立延岡病院 DMAT
- ②都城市郡医師会病院 DMAT
- ③県立宮崎病院 DMAT
- ④善仁会病院 DMAT
- ⑤小林市立病院 DMAT
- ⑥和田病院 DMAT

当院の派遣期間は1月27日から2月3日まで（移動期間を含む。）で、1月29日から2月1日までの4日間、現地で活動しました。

### 【宮崎 DMAT が行った主な業務】

- ①穴水町保健医療福祉調整本部活動
- ②患者搬送（転院等）
- ③避難所や福祉施設等の調査及び巡回診療
- ④公立穴水総合病院の救急患者受入支援  
（日直+当直）
- ⑤公立穴水総合病院の病棟当直支援
- ⑥自衛隊仮設風呂での施設入所者等の入浴介助

## 【当院 DMAT の活動記録】

### (救急患者受入れ支援)

活動初日に公立穴水総合病院で日中の ER 支援を長崎大学病院から業務引継ぎを受けました。公立穴水総合病院は、病床数 100 床の病院です。被災直後から多数傷病者や救急車の受入れを行っており、スタッフも疲弊しているものの救急受入れは継続する必要があることから DMAT が支援を行っているものです。

当院が長崎大学チームから引継ぎを行い、昼食休憩をとろうとした矢先に、救急隊から救急患者受入れ依頼がありました。この患者の診察が終わる頃、新たに救急患者受入れ依頼が救急隊からあり、2 名の患者を受入れました。この 2 名の患者は、検査や診察の結果、入院を要さない軽症でしたが、内 1 名については避難所までの移動手段が確保できないということから、待機していた DMAT が避難所までの搬送を実施しました。

通常、他院での救急患者受入れ支援を行う場合には、電子カルテの違いや運用の違いなどで引継ぎ等に時間を要しますが、幸いにも、公立穴水総合病院で使用されている電子カルテや救急受入れ時の検査オーダーのフローがほぼ同じであったため、スムーズに引継ぎができ、小林市立病院の救急科が公立穴水総合病院内に救急科分室を開設したイメージで業務を進めることができました。

当院が対応した 2 名の患者を含め、公立穴水総合病院で DMAT が対応した救急患者は約 300 名となりました。



### (介護施設・避難所等のスクリーニング)

介護施設に隣接する避難所から新型コロナウイルス感染症に罹患した避難者の対応等について、穴水町保健福祉センターに罹患者の受入れについて相談があったことを受け、山梨から派遣中の保健師チームと当院 DMAT が連携して施設巡回を行いました。また、同施設や避難所において感染拡大を防止するため、スクリーニング検査や感染予防指導（ゾーニングを含む。）等を実施しました。

なお、施設及び避難所巡回等の業務については、JMAT（日本医師会災害医療チーム）に順次業務引継ぎを行うフェーズになっていました。

### (救急患者搬送支援)

救急外来で受入れた患者や、公立穴水総合病院に入院中で転院が必要な場合に、高次病院である金沢大学附属病院等へ転院搬送を行うために、28 日の午後から 29 日の朝方まで待機しましたが、該当患者はいませんでした。

### (入浴介助)

近隣の福祉施設の患者が、公立穴水病院の敷地内に自衛隊が設置した仮設の風呂を利用することと、入浴介助の相談を受け、当院 DMAT の看護師が入浴介助を実施しました。

### 【活動を振り返って】

当院はこれまで平成 23 年 3 月の東日本大震災、平成 28 年 4 月の熊本地震、令和 2 年 7 月の豪雨災害（熊本）で活動実績がありますが、今回の石川県での派遣活動は、DMAT（急性期医療）から JMAT（慢性期医療）等への転換期における支援となりました。発災から 1 ヶ月が経過しようとしている現時点でも断水は続いており、医療スタッフも疲弊している時期だったと思います。特に入浴介助等の業務においては、DMAT がこれまで行ってきた支援活動にはなかった業務でした。しかし、『私たち DMAT に求められる支援はなんでもやる』という視点に立って新たなフェーズでの活動が出来たことは、とても貴重な経験となりました。

今後は、この経験を活かして、当院の災害時の体制強化を図っていきます。

経営企画係長 武田 慎一

## 3 階病棟紹介

3 階病棟は、整形外科・泌尿器科・救急科を主とした急性期一般病棟です。患者さんが安心して入院生活を送ることができ、早期に地域で生活が送れるよう、多職種を含めたチームで看護ケアに取り組んでいます。

本年度は、3 名の新しいスタッフが加わり共に頑張ってきました。今回はその 3 名から 1 年を振り返り、皆さんにメッセージを伝えてもらいます。

この 1 年間、初めはわからないことだらけで大変な時もありましたが、先輩方の支えにより多くの学びを得ることができました。

今後は、学んだことを活かして、患者さんに寄り添える看護師を目指したいです。

看護師：上床 幸弘



初めての分野で、処置や薬剤など分からないことが多くありましたが、先輩方や同期の支えがあり学びの多い年になりました。

これからも、看護師として成長できるよう日々努力していきます。

看護師：山波 竜也

入職して 1 年を振り返り、最初は分からないことばかりで不安でしたが、先輩方や同期の支え、指導があり多くの学びを得ることができました。

これからも患者さんに寄り添い、信頼される看護師になれるよう頑張ります。

看護師：坂本 瑠奈



3 階病棟看護師長 玉利裕美

## スタッフのひとこと

三寒四温の言葉どおり寒さと暖かさが入り混じる毎日ですが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。3 月は卒業や新生活の準備など忙しく、あっという間に過ぎるような気がします。慌ただしい日々の中でも春の訪れを感じ、年に 1 度の季節を楽しみたいです。

新生活を迎える皆さん、新しい環境への不安や期待、色々あると思いますが、素晴らしい毎日が送れますようお祈り申し上げます。

地域医療連携室事務員 瀧口 麻希

連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225 (直通)

FAX 0984-23-8226

Mail k\_hosp4@city.kobayashi.lg.jp